

こんにちは。今月からこのホームページで肉用牛のお話しをさせていただく(有)シェパードの獣医師 松本です。今月は初回ということで、自己紹介をかねて、今の僕の仕事の内容と、これからこのページで書いていく内容みたいなものをお話ししようと思います。

僕は1962年に熊本県で生まれました。現在41歳、厄年まっさかりです。鹿児島大学の大学院獣医学専攻を終了して、8年間は鹿児島県の出水地区農業共済組合基幹家畜診療所に勤務しました。その後独立して現在の(有)シェパードを設立し肉用牛専門で家畜の診療と、農場、飼料メーカー、家畜病院などのコンサルテーションをおこなっています。それから現在、山口大学大学院連合獣医学科博士課程に在籍しています。というか、本当はこの春めでたく卒業！の予定だったのですが、みごとに落第留年(涙)しちゃいました。本当は研究者って向いてないんだよなあ。ほんとうにトホホです。本音を言うと博士号なんていいから、大学院やめたい。でもせっかく指導して下さっている先生にも悪いしなあ。僕はやっぱり現場で牛さんや農家さんと顔を合わせて、一緒に現場の情報から「ああでもない、こうでもない」って考えながら問題を解決するのが好きなんだよなあ。などと日々みっともない愚痴をこぼしています。

あ、そんなことはどうでもいいですね。先に進みましょう。僕の仕事自体は、月の半分は地元で診療、残りの半分は農場のコンサルや講演などで全国をウロウロしてます。「あちこち行けていいなあ」なんて声が聞こえそうですが、どこに行っても空港か駅とホテル、それに講演会場か牧場しか廻らないんだから、観光なんてほとんどなしですよ。時間もたいていぎりぎりです。そうそう、最初に 県に講演に行ったときなんか、寝台夜行列車で 県に行き、朝ついて講演会やってその夕方の夜行寝台車で帰って翌朝鹿児島で仕事でしたからね。今この原稿だって兵庫県から東京に移動する新幹線の中で書いてるんですよ。あ、また愚痴ってしまった。本題に戻りましょう。

講演会の方はだいたいどんな仕事かわかりだと思いますが、講演会の相手は農家さんだけではありません。同業者の獣医師の先生たちとか(ときどき会場で目が怖い先生がいます。やっぱ、同業者ってことで質問もスルドイのね。)、消費者の方を相手にお話しすることもあります。消費者の方には、牛飼さんの苦労やら、牛肉は安全ですよなんて話、それから環境に配慮した畜産のこと、国産牛をもっと食べて下さい、なんてことを泣ながら(ちょっとオーバー?)訴えます。だって、せっかく農家さんを指導して肉質がよくなっても、消費者の方々に食べていただけないと、なんにもなりませんからね。

さて、コンサルの方ですが、こちらはなんかうさんくさい響きですよ。いい加減なこと言って、高い金ふんだくって、高い背広着てベントス乗って、みたいな(笑)。でもほんとうのところ、そんなもんじゃありません。地味な仕事ですよ、横文字商売だけど。料金だ



って安いってば。

僕のコンサルの進め方をお話しするのは、同じ視点で見ていただくことで、もしかしたら皆さんの経営改善の役に立つかもしれないと思うからです。僕のコンサルは、現場の巡回でその農場の問題点を把握することから始まります。もちろん場合によっては食肉市場でその農場の枝肉を見ることもあります。後でくわしくお話ししますが、枝肉を見ると、その農場の問題点やどの作業を改善したらよいのかが解るのです。

農場巡回で気を付けるのは、まず第一に各月齢でこうなっていないとちゃいけないという理想の体型になっているか、あるいはどの時期にどの程度はずれているか、です。また牛さんの落ち着きや敷き料の状態、牛舎の衛生度、換気の状態を見ます。それから大切なのは、その農場で発生する病気の状況です。病気というのは飼養管理失宜（飼養管理の間違いの部分のことです）をよく反映してくれるんです。病気もいくつかに分けて考えます。まず肺炎や血便などの感染症。これはストレスを減らしたり免疫を高めてやる工夫で乗り切ります。また病原体を減らす工夫（消毒や生菌剤の給与など）や適切な薬剤使用の指導もしなければなりません。次にビタミン欠乏症や骨軟症、カルシウム欠乏症などの、いわゆる栄養素の欠乏で起こる病気。これには発生しやすい時期が決まってくるから、その前の段階で不足する栄養素を補給してあげます。それから尿石症とかルーメンアシドーシス、肝炎、ズルなどの第一胃の発酵異常で起こる病気。実はこれが肥育牛では最も多いシタチが悪いのです。こちらは腹作りの指導や濃厚飼料の配合割合の改善などで対応します。

病気の話が長くなりましたが、そのほかにヨロイの付着状況や瞳孔の大きさ、ウンコの状態などもきちんと把握します。ヨロイというのは牛さんに付着したウンコの塊のことですね。じつはこのヨロイがたくさん付いた牛さんは、第一胃の発酵状態がよくないために、皮脂の分泌がよくないのです。車でいうとワックスがかかっていない状態。だからウンコがくっつくんですね。それから瞳孔の大きさというのはビタミンAのレベルを教えてください。ビタミンAが不足すると夜盲症、いわゆる鳥目になるのですが、体内のビタミンAのレベルが不足してくると少しずつ目の網膜の光を感じる能力が低下していくため、瞳孔が大きく開いてくるんです。もちろんビタミンA欠乏の牛では失明して瞳孔が全く閉じなくなる牛さんもいます。ウンコも多くのことを教えてくださいから注意しましょう。同じ下痢でも臭くて黒っぽい色の下痢はタンパク質が第一胃でうまく利用されていないか、第四胃以降での消化がうまくいっていない場合が多く、黄色い水下痢をして熱がある場合にはでんぷんの消化に問題がある場合が多いのです。こんな風に現場で牛さんから教えてもらえることはたくさんあります。

それからその農場で使用する飼料の設計にかかります。それと、その農場で使うことができる粗飼料を調べて、各月齢ごとの粗飼料と濃厚飼料の給与量を設定します。ま



たビタミンその他の添加剤の使用量とその時期なども設定します。あれっ？もうページがなくなってきましたね。ということで続きは次の更新で書きます。

